

茶臼岳遭難(2022年6月)

妻と2人で茶臼岳経由で光岳往復登山。下山まであと少しの所で転倒し、脱臼骨折。動けないため妻が下山し警察に救助要請でき事なきを得た。



解説

妻と二人で2泊3日の光岳登山を計画。夫は、前々日まで2泊3日の登山をしており、光岳登山は疲れが残っていた。1日目は登山口～茶臼小屋まで。2日目は茶臼小屋～光岳～茶臼小屋。3日目は茶臼小屋～登山口まで。アクシデントは3日目の下山まであと少しの所で起きた。転倒による脱臼骨折で歩けない。電波も届かない。

妻は看護師だったのが幸いし応急処置を行った後、その場にテント、食料等必要な装備を置き登山口の電話まで下山し救助要請。

ヘリが救助隊員を乗せ駆け付けれるも、ピックアップできる場所ではないため救助者の移動が必要。救助隊が背負って沢まで移動するも急に天候が悪くなり、この日はウソッコ沢小屋で過ごす。翌日、ヘリで救助され病院に運ばれた。

①ケガの応急処置の知識、②救助要請者を一人にする場合に必要な装備を置いておく、③下山時間に余裕があったため救助隊が間に合った。

道迷い遭難ではないものの、助かるためのプロセスがこの事例にはみられる。